



角大佐は陸軍大佐で退職された後、佐世保市の市長さんになられたのです。佐世保市には幾つかの政治上の党派があったのですが、そういう党派が全部で角大佐を市長に推薦されたのです。そのとき角大佐は私を市長の秘書にするといわれ、私がいただいたお手紙の中の宛名のところには、「市長秘書中根正世」と書いておられたのでした。ところが惜しいことに角大佐は市長におなりになれなかったのです。それは鎮守府ですから諸外国から軍艦が来るが、それが中将とか、大将とかいう人たちが来るのに、角大佐は大佐ですから少し資格が足りないということになり、惜しいことに市長におなりになれなかったのです。角大佐は軍人ではあったが、普通の軍人ではなく、とてもよくできたお方で、佐世保ではもちろんのこと、長崎でも市長さん以上に人気のあるお方でした。長崎で、例えば天皇誕生日とか、陸海軍の記念日とかいうような大きな祝日には、角大佐は佐世保鎮守府を動かして鎮守府から長崎に軍艦を派遣させられていたほどでした。後に京都で兄と二人で創立していた両洋中学の顧問になっていたのです。私が天皇陛下に著書を献上する光栄に浴したのも角大佐のおかげでした。それは後で詳しく書きます。